

巻 頭 言

国際政治経済学部部長兼大学院国際政治経済学研究科長

手 島 茂 樹

国際政経論集第11号を、平成14年3月に退職された南義清先生、平成15年3月に退職された柳尚熙先生、及び平成17年3月に退職される予定の松岡一夫先生、神立春樹先生という4名の先生方の退任記念号という形で、発刊できたことは誠に意義深いものがあります。この4名の先生方は、いずれも深い学識と優れた研究業績をお持ちであり、何にもまして、教育への厚い熱意を持って、学生の指導に当たられました。各先生の事跡の詳細については、各先生がご自身で本号に特別寄稿しておられますので、そちらに譲りますが、ここで改めて4名の先生方に対し、深い尊敬の念と共に、厚く感謝申し上げたいと思います。

省みれば二松学舎大学国際政治経済学部及び大学院国際政治経済学研究科は一つの大きな転機に来ております。昨年4月には、九段新キャンパスでの学部専門課程授業の開始、さらに、主に社会人を対象とする大学院東アジア経済ビジネス・プログラムの開設を行い、9月には、「東アジア協調の新段階—経済、産業・ビジネス、国際政治の視点から」というテーマで国際政経シンポジウムを開催しました。

今や、教育・研究の実を一層挙げる飛躍のときに来ているわけですが、こうしたときに、優れた先生方をお送りすることは、我々残された者たちにとっては大変大きな痛手であり、心して今後に備えなければならないと感じております。今後ともよろしく後進をご指導・ご鞭撻いただきたいと存じます。

改めて、4人の先生方に御礼申し上げると共に、新しい門出をお祝いしたいと存じます。有難うございました。今後の一層のご発展をお祈り申し上げます。